

派 遣 報 告 書（報告者； 内田 一颯）

大会名	第 78 回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会
開催地	宮崎市総合体育館（男子） 宮崎県体育館（女子）
日 時	令和 6 年 4 月 20 日（土）～21 日（日）
担当ゲーム	① 男子 1 位パート 延岡学園高等学校（宮崎県）vs 川内高等学校（鹿児島県） ② 男子 1 位パート 柳ヶ浦高等学校（大分県）vs 川内高等学校（鹿児島県） ③ 女子 2 位パート 鹿児島女子高等学校（鹿児島県）vs 熊本商業高等学校（熊本県）
クルー	① CC：井元 誠 氏（熊本県 A 級） U1：東郷 朋廣 氏（宮崎県 B 級） U2：内田 一颯 ② CC：川島 司 氏（宮崎県 S 級） U1：小田 裕一 氏（宮崎県 B 級） U2：内田 一颯 ③ CC：小川 隆三 氏（宮崎県 A 級） U1：内田 一颯 U2：甲斐 誠進 氏（宮崎県 A 級）
Pre-Game Conference	
① ☐ ゲームフローの共有 ☐ 両チームのスカウティング（パンフレットを用いて） ☐ ファウルフローの共有（発見→分析→決断） ☐ メカニクスの確認 ② ☐ 1 試合目の反省点の共有 ☐ 両チームの情報の共有とアクティブマッチアップの予測 ☐ メカニクスの確認 ③ ☐ シンプルなプレコーリング、プライマリの確認 ☐ 各々の課題の共有 ☐ メカニクスの共有（トラップディフェンスの対応） ☐ 初めてのクルーなのでアイコンタクト・情報の共有をする	
Post-Game Conference	
① IR：米丸 尚志 氏（宮崎県 B 級） ☐ テンポセットを井元氏にいただきクリーンなゲームになったが 1st プライマリの Ref の笛が鳴っていなかったので素直に笛を鳴らすべきだった。 ☐ FUL までしっかりと見る事ができ強く判定ができていた ☐ UF かどうかクルーで寄ったときにダウングレードも視野に入れておかなければいけない。 ☐ EOQ の判定に感じては映像の検証が必要。 ☐ T 0・表示物の管理 ② IR：倉掛 啓輔 氏（宮崎県 B 級） ☐ 序盤でゲームが決まってしまう逆に難しいゲームになった。 ☐ 正しい判定・表示物管理ができていたか映像で振り返りが必要。 ☐ C・T でのポジションアジャストの動きは外から見ていてよかった。 ③ CC：小川氏を中心に ☐ 発見した情報を簡単に笛にするのではなく吟味（分析）して決断すると深みが出る。 ☐ 見つけた情報を決断して笛にしたケースでよかったものもあった。 ☐ コーチの方からのアピールに対しての対応。 ☐ 時間・点差・状況を考えた判定を心がけると良い。	

今大会に参加しての感想など

- 今回は判定力（call the obvious）をテーマに大会に臨みました。
- 自分の欠点である笛の速さを意識してしまい、割当をいただいた3試合ともにゲーム立ち上がりのテンポセットで出遅れてしまい、マインドセットに苦勞をしました。
- 新しいメカニクスやポジションアジャストはトライできたので良かったです。
- 2日目に1試合県外の大会で初めてIRをさせていただきましたが、ゲームの見方に課題がありました。
- 各県の審判員の方々とたくさん話す事ができ、貴重な時間を過ごす事ができました。
- T O をしてくださった宮崎県の高校生の皆様、大会運営が大変な中、映像の撮影などにご協力いただきました宮崎県バスケットボール協会の皆様に本当に感謝しています。また派遣をしてくださった樋口審判長をはじめとする大分県バスケットボール協会の皆様に感謝を申し上げ、報告いたします。ありがとうございました。